



特集

実践 地域ぐるみで鳥獣被害対策

有害鳥獣対策室 (☎内線264)

近年、ニホンジカなどの野生鳥獣の生息範囲が積雪量の減少などにより拡大したことで農業被害が多く確認されており、切実な問題となっています。

入れない、近づけない

野生鳥獣の被害を防ぐのに欠かせないのは、侵入防止柵です。個々で設置するのも大切ですが、地域や集落ぐるみで柵を設置することで、広範囲にわたって鳥獣被害に遭わない環境をつくることができます。

柵は対象となる動物の行動特性を考慮し、設置する必要があります。設置後は定期的に点検し、切れ目や隙間の補修、地際の固定などに力を入れましょう。そして、出没したら必ず追い払うことです。特にサルに対しては農地は危険な場所だと学習させるために、出没したら必ず追い払いましょ。十分な追い払いをすると、逆に人

馴れが進んでしまいますので、注意が必要です。

誘い込まない、追い払う

野生動物を人里に誘引する要因である放置された農作物、果樹の除去をしましょう。



被害にあった農作物

収穫しない農作物などは、野生鳥獣の格好のエサとなります。

誰も収穫しない果樹は伐採するなど、農作物は農地に残さないようにしましょう。耕作放棄地や山沿いの放置林は、野生鳥獣の格好の隠れ場所となります。農地だけでなくその周辺も草刈りなどを行い、明るく見通しのよい場所に交えていきましょう。

また、人の気配が少ない倉庫や物置、空き家などは中型獣類の住みかになりやすい場所です。点検や管理を怠らず、野生鳥獣にとっ

鳥獣被害対策実施隊員にインタビュー

鳥獣被害対策実施隊員の皆さんは、有害鳥獣の捕獲や鳥獣被害を防ぐ活動をしています。

市では現在、中津川市猟友会と恵北猟友会の推薦を受けた157人が隊員として奮闘しています。隊員の平均年齢は60歳を超え、高齢化が課題となっていますが、若手や女性隊員も活躍しています。今回、加子母分隊の林杏実菜さん、大藪絢香さん、側島優希さんの3人にお話を伺いました。



「隊員になった経緯は？」
林 私と側島さんは森林文化アカデミーという林業の専門学校に通っていて、そこで罾の狩猟免許を取得しました。狩猟に興味があり、加子母森林組合に就職した際、組合長のすすめで猟友会に入りました。

「普段どのような活動をしていますか？」
大藪 普段は特に被害の多いイノシシやニホンジカの捕獲をやっています。ニホンジカは農業被害のほか、林業被害も多くあり、その対応をしています。近所でも農作物被害で困っている方がいるので、

被害が減るといいなという思いで活動を行っています。

「活動の魅力ややりがいは？」

側島 今まで話すことがなかった人と話す機会が一気に増えました。本当にいろいろな年代の人との関わりができたっていうのが一番。あと、実際に自分で罾を持ったり、装備を揃えたりしたことで、今ま



話を伺った鳥獣被害対策実施隊員の皆さん



はやしあみな 林杏実菜さん
おおやあやか 大藪絢香さん
そばしほき 側島優希さん

私たちと一緒に活動しましょう！

隊員からのアドバイス

被害に遭わないために住宅に近い山などを優先的に明るくすることが大切です。草を刈ったりして森と住宅の境目をはっきりさせるといいと思います。境目が曖昧になっていると動物が来やすくなってしまいます。また、国の交付金事業などを利用して防護柵を設置するのも効果的です。地域ぐるみで鳥獣被害対策をしていきましょう。

補助事業などについて詳しくはこちらをご覧ください。



死亡した野生イノシシを見つけたら

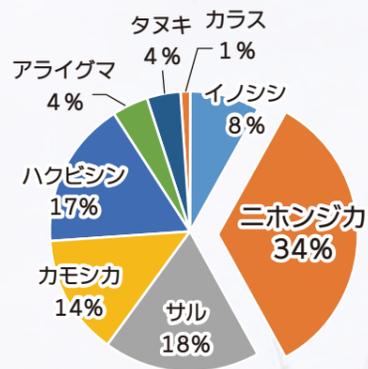
豚熱 (CFS、旧称 豚コレラ) に感染した野生イノシシの死骸が、市内で複数確認されています。

死亡した野生イノシシを発見したら、触れることが無いように有害鳥獣対策室へご連絡ください。ご連絡の際に、発見場所、大きさ、発見者の連絡先をお知らせください。

豚熱は豚とイノシシの病気であり、人に感染することはありません。

有害鳥獣対策室 (☎内線264)

市内の鳥獣による農作物被害



(令和4年度中津川市)

- ### 野生動物の被害を防ぐ3本柱
- ①集落・農地管理
農地に接近・侵入させない。(侵入防止柵の設置・追い払い)
 - ②個体数管理
加害する野生鳥獣を捕獲し駆除する。
 - ③生息環境管理
野生動物の餌となるものを管理または除去する。草刈りなどをして、鳥獣が隠れにくく居心地の悪い緩衝帯の整備。

て住みづらい環境を作っていくために住民同士で生活環境を点検しましょう。